

コスト削減・高品質

ビジネスフォーム印刷に最適!! 《環境配慮型システム》



▼IPCパネルコンピュータ
(オペレーション画面)



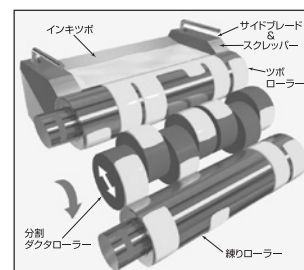
※刷版データとインキ量グラフを同時に表示。オペレーターが操作しやすくなっています。

IPC

〈インキプリセットコントロール〉

★メリット

- ◎分割ダクタローラーは正確なインキ量供給により、色調、立ち上がりが向上。
- ◎低速から高速への速度追従機能により、濃度安定・ヤレ削減を実現。
- ◎極小絵柄でも色品質が安定し、インキ乳化を抑制。
- ◎つぼネジ調整一切不要→時間短縮・生産効率UP。

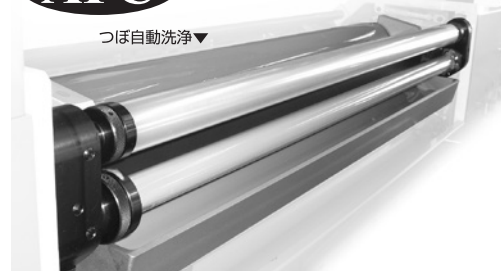


▲分割ダクタローラー機構
(呼び出しローラー)

AFC

〈オートファンテンクリーニング〉

つぼ自動洗浄▼



- インキつぼをカバーフィルムで覆い、自動フィルム巻取機能による洗浄システム。

★メリット

- ◎12色機の場合、インキつぼ&つぼローラーを同時に洗浄、約3分で洗浄完了。

IPC・AFC 国内外特許取得

※類似品にご注意下さい。

アイマー・プランニング株式会社
〒612-8207 京都市伏見区横大路三栖山城屋敷町108

TEL.075-603-3878 FAX.075-603-3877
URL <http://www.imer.jp> E-mail: sec@imer.jp



フォーム印刷

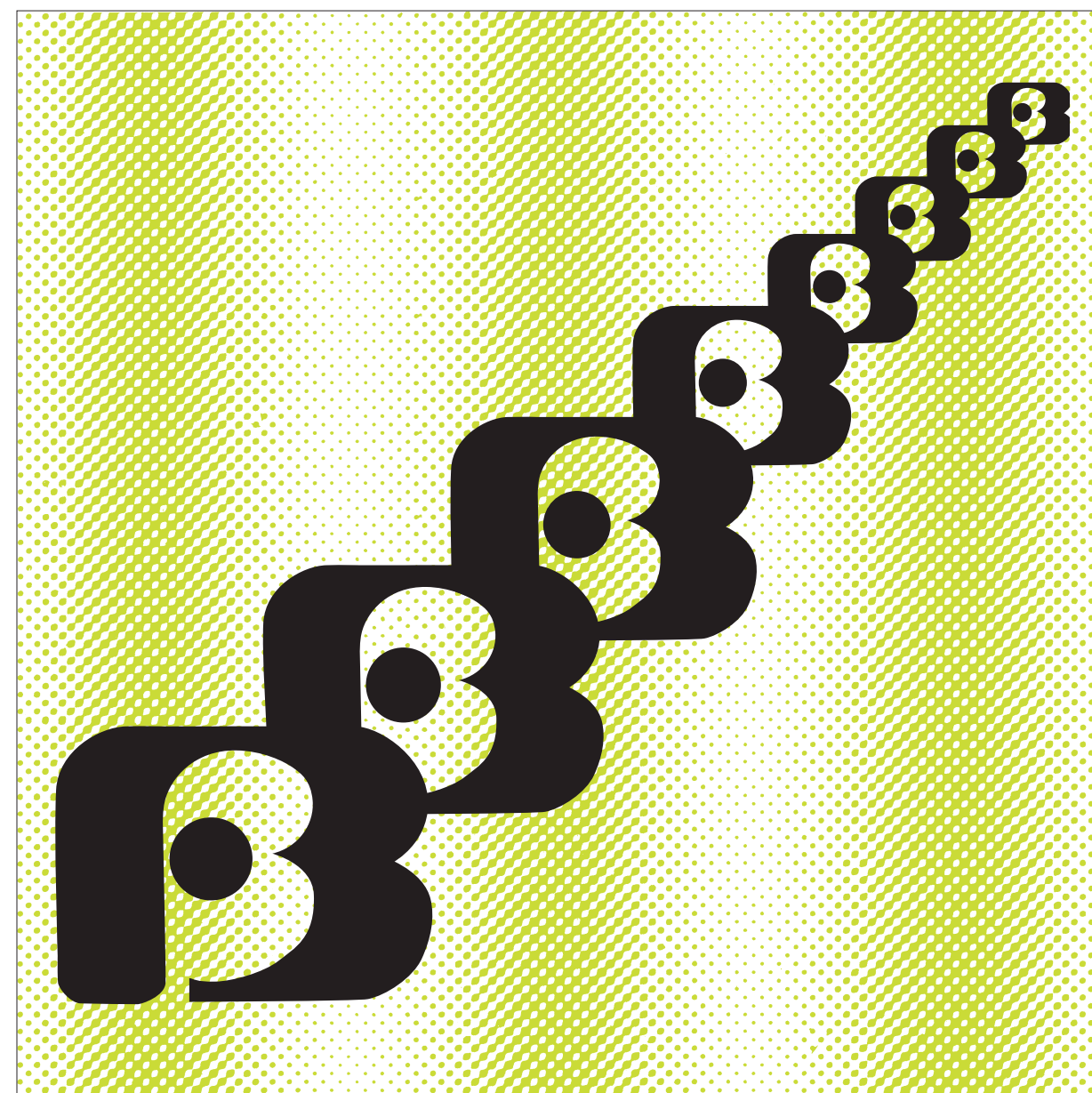


JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **363**



2010 .4

フルカラーデジタル印刷機

Xeikon 8000

スピード 品質 稼働率

品質に厳しい流通業界の DM を 6 日間で 600 万ページ印刷するために、
「この 3 つの基準で満足させてくれたのが Xeikon 8000 でした。」

パラジェット社 セールス・マーケティングマネージャー
ペル ラルソン氏談



Parajett AB (パラジェット) 社
<http://www.parajett.se>

1904 年スウェーデンに設立した総合印刷会社。オフセット印刷、デジタル印刷を含む IT 技術を駆使して、顧客毎に最適なコミュニケーションのためのソリューションを提供。

販売代理店

サカタインクス株式会社 事業開発推進本部

大阪本社 — 550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37
TEL05-6447-5874 FAX06-6447-5839
東京本社 — 112-0004 東京文京区後楽1-4-25(日教館ビル)
TEL03-5689-6674 FAX03-5689-6633

ホームページアドレス <http://www.inx.co.jp>

B フォーム印刷

目次

日本フォーム印刷工業連合会会報 2010.4 No.363

日本フォーム工連 平成21年度第9回理事会議事要録録	2
日本フォーム工連 平成22年度第1回理事会議事要録	4
トピックス	7
新春特別企画セミナー「ブレイクスルーへの挑戦」を開催	
市場調査委員会セミナー「新たなビジネスモデルへの挑戦」を開催	
工業会だより	10
関東フォーム印刷工業会 新春懇親会を開催	
東北フォーム印刷工業会 工場施設見学会を開催	
INFORMATION	11
印刷産業海外展開促進研究会「ニューヨーク国際ギフトフェア」に製品を出展	
国際委員会 北米印刷事情レポート(2010年1月～3月)	
デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会	
PAGE2010基調講演レポート	
業務・国際委員会 第18回中国上海国際印刷&フォーラム 2010視察と	
日中交流会参加者募集の案内	
書籍案内「印刷経営の原点：社会と文化」	
世界の最新印刷レポート2009-2010 財団法人印刷図書館発行	

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート H-17 BFシリーズ

特徴
☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御
☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい
☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制



富士薬品工業株式会社

FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD

HP URL <http://www.fcfuji.co.jp>

本社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10

TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205

大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1

TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

TOYO INK

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ

FD フォーム X シリーズ

東洋インキ製造株式会社 RC 事業部

東京都中央区京橋 2-3-13

Tel : 03-3272-7693

www.toyoink.co.jp

- 高い硬化性 UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- 広い水幅 水を上げても良好な印刷適正を実現。
- 優れた転移性 着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- 紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。

日本フォーム印刷工業連合会 平成21年度 第9回理事会議事要録

■平成22年3月11日(木)午後1時30分～2時45分 日本印刷会館 5階501会議室

■出席者(21名)

秋山会長、小林副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、玉田常任理事、川口常任理事、中村常任理事、福田常任理事、笹氣常任理事、松尾常任理事、中川常任理事、灘常任理事、和田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、清水理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)

議 題 (1)委員会報告

(2)日本印刷産業連合会等関連報告

(3)各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、秋山会長の開会挨拶があり議事に入った。

「秋山会長挨拶骨子」

今年も早いもので3月になり、今年度の最後の理事会になります。

最近の情勢は、新興国の景気拡大や世界的なカネ余りにより、資源価格が上昇傾向にあり、我々の環境とても予断を許さぬ状況になっています。

また、景気動向指数は、景気が順調に持ち直していることを示していると言われていますが、実感できる状況になっていません。これから得意先へのきめ細かい対応に注力して、この厳しい環境を乗り切っていきましょう。

委員会報告

●資材委員会

3月度用紙事情説明についての報告があった。

用紙の国内出荷高は前年同月比で増加をしているが、量的には低調で前々同月比では18.4%減と大きく落ち込んでいる。フォーム用紙についても同様で前々同月比では約10%減となっている。

ダンボール原紙については前年同月比103.6%、オフセットインキの状況は前年同月



比94.7%になっており、12月景気指標の鉱工業生産指標がやっと+5.1%になった。

●国際委員会

・PSDAレポート2・3月号の概要報告があった。

・IPEX2010(英国バーミンガム)への視察ツアーの募集開始を案内。

今回の特徴は出展者企業の3分の1強が初出展企業で、デジタルおよびプリプレスの分野の企業とのことです。Ricohは今回IPEXには初出展。Konica Minoltaは展示面積4倍に拡大。Océ、Canon、Pitney Bowes、Fuji、HP、Xeroxが面積を拡大して展示。

企業訪問では英国印刷関連市場の動向を調査し、ロンドン市内視察ではロンドン地下鉄の駅で全面的に採用されているデジタルサイネージの見学などを予定。

●業務委員会

2月度月次計算についての報告と、来期平

成22年度理事会及び行事日程の確認を行なった。

●市場調査委員会

事務局の山口から市場調査委員会主催のセミナー案内を報告。

市場調査アンケート報告を岡田委員長から、情報のデジタル化と急速に進展したネットワーク化など、BF市場を取り巻く大きな変革について、(株)ドリームビジョン代表取締役の平石社長様から、(株)朝日オリコミ戦略本部の鍋島本部長補佐様にも加わったパネルディスカッションを実施予定。

●技術委員会

事務局の山口から4月16日に開催する技術セミナー「ユニバーサル デザインについて」の開催予定を報告。

カラーユニバーサルデザインについて「色彩」の視点から、東洋インキ製造(株)カスタマーネットワーク本部マーケティング部 武田部長様から、情報をより正確に伝えるための「モリサワUD書体」として「フォント」の視点から、(株)モリサワ フォント企画部 阿野係長様からの講演を予定。

●環境委員会

第9回印刷産業環境優良工場表彰の応募案内を行なった。

今回からより多くの工場から環境優良工場表彰への応募頂けるように、各社工場単位で申込みが可能な第1次審査を設けたので、積極的な応募を依頼。2次審査応募については環境委員会として全面的なバックアップを行なうと報告。

●その他

印刷産業海外展開促進研究会について事務

局の山口から報告。

ニューヨークで1月31日から2月4日まで開催される「国際ギフトフェア2010冬展」印刷産業界から公募した印刷製品40作品を出展。フォーム工連からはトッパン・フォームズ(株)と太平洋印刷(株)から提出頂きました計3点を出展した。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

(1)「印刷経営の原点：社会と文化」

(財)印刷図書館編纂・刊行案内

(2)景気対応緊急保証の創設等の中小企業資金繰り対策(中小企業庁)

(3)労働基準法の一部改正(厚生労働省)

各工業会報告

関東工業会報告(瀬戸会長)

工場見学を相互に行なって各社の設備を有効利用する事を模索している。本年10月には関東主催の持ち回り理事会を箱根で開催すべく、準備委員会を結成して準備を始めている。定期開催の関東工業会の理事会も合流させて頂いて、全国の皆様との交流を深めていきたい。

北海道工業会報告(川口会長)

北海道の中小企業同好会のアンケート結果では、北海道経済は大幅悪化。価格競争が激化。経費節減と人材育成を行ない、新分野、新規事業を開拓し、経営体質の強化をしたい。

会員の新しい分野への取り組みとして、データプリント事業の導入を数社が考えている。

東北工業会報告(笹氣会長)

2月23日にオーダーメイドの封筒を作っている武藤ユニパックの工場見学会を、会員約20名が参加して実施。5月14日には東北工業

会の総会を山形で開催予定。

中部工業会報告(松尾会長)

会員の維持が難しい状況にある。

トヨタを中心としている中部経済圏では、米国での問題から景気は2～3ヵ月以降が分からない状況にある。印刷の仕事の量が非常に少ない。

関西工業会報告(中川会長)

関西の紙の出荷量の前年対比を見ていると元に戻ったような数値であるが、一昨年は非常に出荷量が少なかったのも、まだまだ回復の状況ではない。

兵庫支部では2月5日に新年会を開催。大阪支部では2月25日に(株)光文堂から「環境活動に於けるコスト削減」をテーマに勉強会を開催。京滋支部では3月25日に支部会を開催予定。

3月18日には関西工業会理事会、5月15日には定期総会を開催予定。

九州工業会(和田会長)

地方の会員は一般印刷を行ない、一部でビジネスフォームを製造している会社が多いの

で、ビジネスフォームの製造を辞め退会する会員が数社ある。

会員に対して、より具体的なビジネス支援を行なう事を考えていきたい。

最後に小林副会長より閉会挨拶があった。
「小林副会長挨拶骨子」

今日の皆様のお話をお聞きしていると、どこも厳しい状況にあります。冒頭秋山会長から素材価格の上昇が考えられるとの話があり、大変な状況にあります。

やはり新しい分野をどのように切り開いていくかが大事なことだと思う。工連としては様々なセミナーを開催しているので、積極的に参加をして、新しいビジネスモデルを追い求めて行く事を心掛けて欲しい。

次回 平成22年度第1回理事会

開催日 平成22年4月8日(木)

時 間 午後1時30分より

場 所 日本印刷会館2階201会議室

を確認して閉会となった。

「秋山会長挨拶骨子」

新聞紙上では新興国の旺盛な需要や株高、金融緩和によるマネーの拡大によって、原油や銅などの資源価格が上昇してきている。そこで、日本は構造的な需要不足による「デフ



レ」と「資源高」の挟み撃ちで苦しむ可能性があるといっている。

我々の環境としても、2月のチリ地震をきっかけとして、パルプの世界の9%を供給しているチリ工場の操業停止で、国際価格が上昇していることに加えて、重油などの原燃料費の上昇で、製紙価格が値上げに動くとの見方が出てきており、今後の動向に注目していく必要がある。

委員会報告

●資材委員会

4月度用紙事情説明についての報告があった。

印刷情報用紙の国内出荷は、前年同月比3.0%増で3ヵ月連続のプラスであるが、前々年同月比では24.5%減と大きく落ち込んでいる。

ダンボール原紙については前年同月比111.3%、オフセットインキの状況は前年同月比8.7%減になっている。

●国際委員会

・PSDAレポート3月号の概要報告。

・IPEX2010(英国バーミンガム)視察ツアーについての詳細説明。

・上海印刷展示会と、中国BF印刷業界との懇親会(上海7月4日から5日間)を提案。

●業務委員会

3月度月次計算についての報告と、来期平成22年度事業計画案を説明した。

●市場調査委員会

事務局の山口から市場調査委員会主催セミナーについての報告があった。参加者は約80名で熱心に(株)ドリームビジョンの平石社長様から、BF市場を取り巻く大きな変革についての説明を聴講した。また、新聞折込みチラシ業界の鍋島本部長補佐様にも加わって頂き、パネルディスカッションを行った。(講演内容はホームページに掲載予定)

●技術委員会

4月16日に開催する技術セミナー「ユニバーサルデザインについて」の開催を報告。

カラーユニバーサルデザインについて「色彩」の視点から、東洋インキ製造(株)カスタマーネットワーク本部マーケティング部 武田部長様から、情報をより正確に伝えるための「モリサワUD書体」として「フォント」の視点から、(株)モリサワ フォント企画部 阿野係長様が講演する。(配布資料はホームページに掲載)

●環境委員会

・第9回印刷産業環境優良工場表彰の応募を締め切った。今回からより多くの工場から環境優良工場表彰への応募頂ける様に、各社工場単位で申込みが可能な第1次審査を設けたのでフォーム工連から5事業所からの応募を頂く。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

(1) 日印産連・平成22年度事業計画概要並

日本フォーム印刷工業連合会 平成22年度 第1回理事会議事録	
■平成22年4月8日(木) 午後1時30分～2時45分	日本印刷会館 2階201会議室
■出席者(21名)	
秋山会長、小林副会長、小谷副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、玉田常任理事、丹羽常任理事、岡田常任理事(代理佐々木様)、川口常任理事、中村常任理事、福田常任理事、笹氣常任理事、松尾常任理事、中川常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)	

議 題 (1)委員会報告

(2)日本印刷産業連合会等関連報告

(3)各フォーム印刷工業会からの報告
議 事 冒頭、秋山会長の開会挨拶があり議事に入った。

- びに収支予算(案)
- (2) WPCF理事会出席報告
- (3) 下請取引の適正化等に係る要請文書について
- (4) GP資機材認定制度について
- (5) 「デジタルネットワーク社会における出版物の利活用の促進に関する懇談会(総務、文部科学、経済産業)合同」発足について(詳細内容は「トピックス」に掲載)

各工業会報告

関東工業会報告(瀬戸会長)

10月の関東主催の持ち回り理事会を箱根で開催すべく、準備委員会を結成して準備開始した。この理事会には、特別会員の各社も呼びして、関東理事会も合同で実施する予定。
北海道工業会報告(川口会長)

北海道の会員各社の状況は、3月は例年同様の仕事量が確保されたが、4月に入ってからからは良くない。道内で26社が全印工連から退会されたと聞くが、フォーム工連から退会した会員はない。

東北工業会報告(笹氣会長)

今後は若い人に次を託すべく次期役員人事を検討している。5月14日に総会を山形で開催予定。

厳しい経営環境ではあるが退会者が出ないように努力したい。

中部工業会報告(松尾会長)

経済環境の厳しい中、退会者が数社あります。中部では5月25日に定期総会と坂本教授をお招きして記念講演会を開催する。

関西工業会報告(中川会長)

先月は保険法改正に伴う仕事があったようだが、4月に入ってからからは良くない。4月22日には大阪で勉強会を開催する予定。

●その他提案

各会員への情報提供として、東京で行なっている各種セミナー等をリアルタイムに地方会員に提供できる施策を検討して欲しい。このことによって会員として参加しているメリットが享受できると思う、との提案があり、事務局で検討することとなった。

最後に小谷副会長より閉会挨拶があった。
「小谷副会長挨拶骨子」

年度はじめの大変お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。

気候の方は少し過ごし易くなりましたが、景気の方はもう一つという中ですが、印刷業界では電子書籍とツイッターとか、紙以外の媒体の話がどんどん出てきて、その上に環境にも気を遣う必要もあり厳しい年度初めです。しかし、ピンチの時にはチャンスとして私は考えたいと思います。是非ともフォーム工連の組織を挺子にして、皆さんとともにピンチの状況をチャンスに変えて行きたいと思っています。

次回 平成22年度第2回理事会

開催日 平成22年5月13日(木)

時 間 午後1時30分より

場 所 日本印刷会館2階201会議室

を確認して閉会となった。

トピックス

新春特別企画セミナー「ブレイクスルーへの挑戦」

日本フォーム印刷工業連合会は1月28日、椿山荘で「平成22年新春特別企画セミナー」を開催し、約120人が参加した。昨年から経営に関する講演会を行っており、新春のセミナーで4回目を数え、今回は講師に眞柄泰利氏(富士(株)社長)を迎え「ブレイクスルーへの挑戦」のテーマで講演を行った。

講演の前に秋山会長があいさつし「われわれの業界には今、多くの課題がある。本日の講演をしっかりと聴き、今後の活動に役立てよう」と述べた。

講演で眞柄氏は、「ブレイクスルー」とは、仮説を立て、それに対し策を打つことだ。現在、私は中国ビジネスに関する会社を営んでおり、主な事業は中国からの観光客誘致だ。中国は広く、人も多いので、海外旅行が可能な人に広告を訴求するのは難しい。そこで「インターネットを使えば、訴求が可能ではないか」という仮説を立てた。

中国でのネット利用者は約3億8,400万人と言われ、日本の人口の3倍も存在する。中国の成長が、日本の高度成長期にそっくりであり、オリンピックと万博が行われるタイミング



講師 眞柄泰利氏

グ、成長の速度や大きさが、時期を重ね合わせたように似ている。日本はその経済成長後、爆発的に海外旅行者が増えた。中国も同じ道をたどるだろう。さらに、過去日本ではやったものが多く、アニメなども日本の作品が多く輸入されている。嘗て日本が米国にあこがれたように、中国人も日本へのあこがれを持っている。

今後、中国からの海外旅行者をはじめ、ビジネスチャンスは増えていく。ここにブレイクスルーがあると私は考えている。(講演内容は日本フォーム印刷工業連合会ホームページに掲載中)



セミナー風景

「新たなるビジネスモデルへの挑戦」 パーソナル化するメディア

市場調査委員会は3月29日、「新たなるビジネスモデルへの挑戦」と題したセミナーを日本印刷会館で開催した。数々のベンチャービジネスに関わってきた株式会社ドリムビジョンの平石郁生社長を講師に招き、ネット時代のメディアビジネスと印刷業の関わりについて考えた。平石氏はフォーム印刷業界が取り組むべき課題として、コンテンツ管理にまで踏み込んだデータベース活用の事業モデルを提案した。



講師 平石郁生社長

今年2月に電通が発表した国内の媒体別広告費によれば、2009年はついにインターネットが新聞を抜き、いよいよネットメディアを中心とした時代の到来を感じさせた。2000年に590億円であったインターネット広告費は、2009年には7069億円にまで成長している。

平石氏は、このメディアの移り変わりについて、「今までは新聞の1面に掲載されている情報が、万人に与えられる最優先の情報として捉えられてきた。しかし、インターネットの進展によって情報の入口が増えたことで、インターネットの検索結果がその人にとっての1面になりつつある」と指摘する。

紙メディアは、紙というメディアに文字や写真などのコンテンツを載せ、大量生産によって広く一般に認知させる手法によって成長してきた。しかし、これまでのビジネスモデルでは、コンテンツとプラットフォームが一体にならざるを得ず、掲載されているコンテンツの再加工や、パーソナル化が困難という課題があった。

一方で、ネットメディアは、ブログやSNSをはじめとしたCGMの拡大や、iPhone、Android携帯などスマートフォンの普及によって、個人が欲しい情報を得るのに最適な環境を整えつつある。

近年ではこれらネットメディア向けプラットフォームのAPIが公開される動きが活発になっており、1つのコンテンツを更新するだけでさまざまなプラットフォームに情報を発信できるようになった。

このような現状のなか、フォーム印刷業界が取り組むべき課題は、「データベースのアウトプット先を変える」（平石氏）こと。単に印刷物を製作するだけでなく、WebやCMSなどデータベースを活用したコンテンツ管理にまで踏み込んだビジネスモデルの構築が急がれる。

平石氏は今後のキーポイントとして、

- ソーシャル化（コンテンツのシェア）
- パーソナル化（多様化する価値観への対応）
- オープン化（アクセシビリティの強化）

の3つを挙げた。

「データベースと結びついたライセンス管理や決済システムの構築は、どの企業でも専門業者に任せていることが多い。これを取り込み、新しいデータの活用法を提示できれば、次のステップを踏み出せるのではないかと指摘している。

フォーム印刷業界では、DPS（データ・プリント・サービス）の普及に伴い、クライアントの持つ顧客情報だけでなく、商品情報や商圈情報まで連動した包括的なサービス展開が求められている。

また、大量の個人情報とコンテンツが出回る社会において、そのデータベース化と表示・出力の最適化はビジネスとして開拓の余地が大きい。

フォーム工連が昨年実施したアンケート調査では、回答企業のうちDPS事業の売上が10%以上増加した企業は3割を超えた。電子化や環境問題に起因するペーパーレス化で低迷するフォーム印刷市場の新たな道筋として期待されている。

セミナー後半のパネルディスカッションでは、「社会の変化に対応するための一番の肝は何か」という質問に対し、平石氏が「何に対して消費者が価値を見出すか考えること」と答えた。

情報処理系の機能が次々と電子化されているなかであって、消費者は活字離れしているのではなく、活字が載っているプラットフォームに価値を感じなくなりつつあるという指摘だ。

また、朝日オリコミの鍋島裕俊氏も平石氏の意見に賛同し、「よりクロスメディア的にプラットフォーム間をまたがって、消費者にアプローチできる仕組みを構築することができれば、活路が見出せるのではないかと見解を述べた。

QRコードやパーソナルURLなど、紙とWebをつなぐアイテムが増えている今、優良なコンテンツだけでなく、その“見せ方”が問われている。

平成22年4月8日発行「印刷新報」記事転載



セミナー風景

関東フォーム印刷工業会

新春懇親会を開催

関東フォーム印刷工業会は1月28日、椿山荘で講演会後「平成22年新春懇親会」を行い、会員や関係者など約200名が出席した。

冒頭、瀬戸会長は出席者に感謝の言葉を述べ、

「法に触れなければ何をしても良いという風潮が世の中を包んでいる。正論を言うことが難しい時代だが、お互いを尊重し、また、大切な社員を切り捨てることなく、養っていきけるよう頑張っていきたい」とあいさつした。

つづいて来賓の山口政廣日本印刷産業連合会会長があいさつに立ち「産業界では需要が大きく減少しているが、付加価値によって利益を上げていきたい。フォーム印刷はオフセット印刷



瀬戸会長

との垣根が小さくなってきたこともあり、技術の進んだ印刷方法で新たな印刷の可能性を探ってもらいたい」と述べられた。

(社)日本印刷産業機械工業会(小森善治会長)の樋口恭司専務理事が乾杯の音頭をとり開宴。ビンゴなどイベントを交えながら、和やかに懇親を深め、新春を祝した。



平成22年新春懇親会風景

東北フォーム印刷工業会

工場施設見学会を開催

東北フォーム印刷工業会(笹氣幸緒会長)は、2月23日(火)工場施設見学会を開催し、会員17名が参加し、栃木市の株式会社ムトウユニパックを訪問した。

工場内の施設見学に先立って、栃木工場紹介のスライドを見ながら、同工場の概要について説明を受けた。

同社の栃木工場は1989年(平成元年)10月に封筒を生産する工場として建設され、現在約1,300種類の封筒を生産し、封筒に印刷も行なう工場として発展してきた。

施設見学では、平均日産約400万枚の生産能力を持つ工場設備の和封筒製袋機、口糊機、洋封・カマス製袋機、型抜機、突揃機、印刷機等を見学した。

また、環境商品として封筒の製造工程で出される端材用紙を再利用して、緩衝材・断熱材ボードを作る興味ある施設を見学することができた。

東北フォーム印刷工業会 事務局 青野敏司



見学会記念撮影

■印刷産業海外展開促進研究会「ニューヨーク国際ギフトフェア」に製品を出展

経済産業省の創造産業海外展開促進事業として、日本の印刷産業を世界に発信するために、日印産連10団体が協力して「ニューヨーク国際ギフトフェア」に1月31日～2月4日の5日間、出展展示を行なった。

この展示会へは日本印刷産業連合会の9団体から40点の作品応募があり、日本フォーム印刷工業会からはトッパン・フォームズ(株)と太平洋印刷(株)の2社から応募を頂き出展し、ニューヨークの会場にはToppan Forms (America) Inc.の橋本Chiefも駆け付け、展示作品の説明にあたった。

今回の展示会は「NIPPON Creative Printing Show」の名称で出展し、来場者の多くはギフト用

品のバイヤーだが、技術やデザイン性の高さを認める声が数多く聞かれた。

その中には美術館のミュージアムグッズ発注担当者や、ギフト用品メーカーの方々も来場し、熱心に展示品に見入っていた。

フィルム印刷やオーディオペーパーに人気が集まり、日本古来の伝統技術による風神・雷神の屏風絵や絵巻物などの再現作品に感嘆の声が上がった。

日本の印刷技術とデザインは米国でも十分に通用するという感触を得ることができ、製品性、技術力、デザイン、新素材を中心に、海外の需要を取り込む可能性は十分にあると、全日本印刷工業組合連合会の事務局は語っている。



NIPPON Creative Printing Show



ニューヨーク国際ギフトフェア会場

国際委員会

■北米印刷事情レポート(2010年1月～3月)

・Quad/Graphics社(業界5位)がWorldcolor社(業界2位)を買収(2010年1月26日正式発表)

非上場企業の最大手であるQuad/Graphics社と、印刷業界2位のWorld Color Press社は、1月26日、両社の取締役会において全員一致でQuad/Graphics社によるWorldcolor社買収を承認した、と発表しました。

Quad/Graphics社は、そのユニークな企業文化で

名が知られています。両社の合併には、RR Donelleyの買収オファーを受けなかったWorldcolorが何故Quad/Graphicsのオファーを受けたのか、またその規模の違いが注目を集めました。実は企業文化の違いをどう融合していくのか、にも業界の注目が集まっています。

Quad/Graphicsは、家族的経営をする企業として30年以上も発展しつづけ、絶え間なく設備投資

を行い、成長をゆるぎない物にしてきた。「徹底した社員教育」「徹底した設備研究 QuadTech（テクニカル部門）」「設備の弱点克服の為の付加的な技術特許の申請」を実践してきた。

この買収によりQuad/Graphics社は、従業員30,000人、将来の売上が8,000億規模の企業体になり、RR Donnelley社に次ぐ大手企業になります。

・RR Donnelley社（業界1位）がBowne社を買収（2010年2月23日発表）

RR Donnelley社は2月23日、総額481ミリオン（1ドル100円換算 481億円）で、Bowne社（売上規模650～800億円、NY上場、創業1775年）の買収を発表した。Bowne社は、株主向け通知書の発送やデジタル ワン・ツー・ワン印刷を、金融業界のみならず、医療業界他に提供しており、特に請求書やステートメントサービス、マーケティング・コミュニケーション・サービスを強みとしている。

・Cenveo社がClixx社を買収（2010年2月11日発表）

Cenveo社（業界6位 商印・封筒・BF・ラベル・DPSの総合印刷会社）は、2月11日、Clixx Direct Marketing Services Inc.（非上場）を買収した。Clixx社は、ダイレクトメール、データマネジメント、バリアブル印刷等を得意とする創業25年の企業で有望な顧客を持っている。今回の買収の理由をCenveo社社長は「昨今の市場では、印刷のみならず、データ処理、DM発送を含むフルサービスの提供が重要なニーズである。Clixx社の買収で総合力を強化することができる。」としている。

・IWCO社がTranscontinental社のDM事業部を買収（郵便料金低迷のためのコーミングリング・メーリング*能力を強化）

IWCO社（売上250億円/2009年度、業界32位の

*コーミングリング（Co-mingling）サービスとは、郵便仕分けの一種で、複数の企業の郵便物を、纏めて郵便番号仕分けし、1社の物量による割引より大きな割引率を適応できるようにするサービス。

DM専業会社）は2月10日、Transcontinental社（業界3位上場企業）のDM事業部（売上150億円/2009年度）を買収した。買収の理由をIWCO社社長は「我々とTranscontinental社の米国内DMオペレーションを合体させる事で、全米レベルの、よりコスト競争力のある、革新的なサービス提供が可能になる。」とコメントしている。

・2009年度の割引クーポンが急伸（業界専門誌PrintingIMPRESSIONより抜粋記事要約）

米国では、シェアードメールという共同発送型DMがある。これは、一通の封筒に、割引クーポンやチラシが沢山入ったDMで、Valassis社（印刷業界売上4位）のサービス提供が有名で、全米の約70%の家庭が毎月1通は必ずシェアードメールを受け取っている、という数値を発表している。

消費者パッケージグッズ（CPG）クーポン業界は、2009年度のクーポン配送枚数が、対2008年度比11%増の3110億枚、クーポンの利用枚数が32億枚、金額にして\$3.5billion（約3,500億円、1ドル100円換算）となり前年度比30%増だったと発表した。これは、統計を取り始めて以来最大規模の実績だったとしています。

・2010年は、ソーシャルメディアの実用化元年（業界専門誌 Print Solutions より抜粋記事要約）

「BF製造会社大手Ennis社の人事採用事例」

Ennis社は採用情報をLinkedInに載せるようになった。それまでは、採用専門のサイトMonster.com等を利用していたが、ソーシャルメディアサイトを見た応募者は、不適格者をふるい分ける手間も最小限で済み、以前より質の良い応募申請者が増えたと評判は上々。

「Western States Envelope & Label社のYouTube利用例」

70年前に撮影した事務処理風景のビデオが会社の財産として残されていた。YouTubeを利用して自社サイトにアップしたところ、珍しさもあり、上々の評判を得ている。

「FORMost Graphic Communications社の取り組み事例」

Facebookにファンページを構築する為に専門の社員を採用。今後とも運用の継続やページ拡大の為に人員の採用を増やす計画。今まで取引の無かった会社を開拓する為のツールとして積極的に採用した。

・米国ヘルスケア改革とビジネスフォーム業界について（業界誌 Print Solutions より抜粋要約）

（HITECH = Health Information Technology for Economic and Clinical Health条例について）

健康記録の電子化により、BF業界は売上が減少する。関係者のなかには、この変化を受け入れ医療関係者の電子化移行を促進し、関連する新たな収入源を作り出す者もいれば、静かに見守りながらBF以外の販売品目を着実に増やしている者もある。何れも、紙にインクをのせる以外の方法を積極的に模索している。

PSDA（BF業界ディストリビュータ・製造会社でなる団体）のメンバー企業Tully-Wihr社は、医療業界に特化した製品やサービスを提供する、創業100年の老舗である。同社は、15か月前からWEBベースの健康記録電子化ソフトウェアAllscripts MyWayの販売代理店になっている。

同社社長のスミス氏は、「無くなるものは仕方がない。医療業界に顧客をもつ者は皆、積極的に電子化移行の支援をする必要がある、と考えるべきである。そうすることで一時的に売上が落ちるが、今までより更に強固な関係を構築する事が可能になる。顧客は、顧客の為になることを第一に考えてサービスをしてくれる人や会社を正に評価するからだ。例えば、専用ソフトウェアの販売は、顧客とのパイプを今まで以上に強化する為のツールになりうる。Allscriptsソフトウェアを立ち上げると、最初のページに当社へのリンクが張られ、欲しいものはいつでもポータルサイトから発注が可能になる。名刺や封筒・ラベルは元より、請求書発行サービスやマーケティング用印刷物の受注も可能

になる。業務拡大の一番の課題は、信用に基づく良い評判を築き上げることである。」としている。

American Solutions for Business（ASB）は、従業員が株主の企業で、500人を超える営業パーソンがいる。年商259億円、内25%の65億円が医療業界向け印刷物を含む消耗品や景品販売。同社DirectorのMcLarty氏曰く、「医療業界は大手があまり入り込んでいないニッチな仕事が多い。又、ここ数年の医療業界の傾向は、入院による治療より、費用効率の高い外来患者治療を優先している。今後も、よりプライマリーケア制度（初期診療を行う臨床医・かかりつけの医者）が優先されるはずだ。医療業界そのものも競争が激化しており、コミュニティに受け入れてもらうべく、医療関係者がスポンサーになるイベントが目白押しである。実は医療業界からの販促用景品需要はかなりのある。」という。

・印刷業界の雇用、大幅減少（On-line 業界情報提供の WhatTheyThink.com より）

2月に労働統計局が最新の統計を発表。2000年から2009年にかけて、印刷業界では30万人の雇用が減少、比率にして-37%の減少となった。印刷関連の全就業人口の71.3%が工場（製造部門）関連であり、大きな変化が見られない。

一番大きな落ち込みはビジネスフォームの-54.3%である。2000年に52,900人だった就業人口は、2009年には24,200人に減少している。

・今後「失われる仕事」のトップ10の業界

（単位：千人）

	業 界	減少比率	2008年	2018予測
1	デパート（百貨店）	10.2%	1557	1398
2	半導体製造	33.7%	432	287
3	自動車部品製造	18.6%	544	443
4	郵便サービス	13.0%	748	650
5	印刷関連	16.0%	594	499～500
6	アパレル製造	57.0%	155	67
7	新聞・出版	24.8%	326	245
8	鉱山業	3.2%	328	252
9	ガソリンスタンド	8.9%	843	769
10	有線電話	11.0%	666	593

・写真製品の急成長

(On-line業界情報提供会社WhatTheyThink.comより特集記事抜粋要約)

(InfoTrends Barb Pellowによる特集)

伝統的な写真現像ビジネスは縮小しているが、その他の写真製品市場が大きな伸びを見せている。写真製品とは、写真入りのカード、本、カレンダー、マグカップや写真拡大サービスなどである。

手頃な価格のギフトになるとして、消費者や小売業者などから注目を集めている。一方、印刷会社や小売業者にとっても、利益率が高く、期待の膨らむ分野である。

InfoTrendsは、2008年から2013年の間に、年率22%の伸びを示すと予測している。このビジネスはリピーターの多さが特徴である。全体の25%が既に購入経験があるということは、これからがまさに口コミの拡大期であり、更なる市場拡大が期待される。尚トリガーとなったのは、デジタルカメラ付きスマートフォンの普及である。このトレンドをどう取り込むか、印刷会社の期待が膨らむ課題である。

・「製紙企業にとってのiPad、eBookの存在とは」
(情報源：Pulp & Paper International (PPI) 3月号)

製紙業界誌Pulp&Paper Internationalが、製紙会社の視点から、Kindle、iPad、eBookやタブレット型コンピュータの普及により紙媒体がどう変わるのかを特集。

印刷業界の本来の仕事は、「情報」を読者と共有するサービスやツールを提供することであり、又、読者と広告主が、お互いに連絡を取り合えるようにすることである。

我々の顧客が、この厳しい時期を乗り越えて、その本来の役割を継続する事が出来るとすれば、量は減るとしても、後10年か20年、或いは30年程は、紙による情報伝達が完全に消えてしまう事はない。

これが、我々に与えられる、既存の設備資産をどうにかする為の猶予期間となるであろう。

もしここ数年で、更に厳しい状況が続くよう

であれば、我々に残された時間が更に短くなる可能性は十分にある。それは、eBookのせいでもない。紙媒体が提供できない「価値」を、新たな媒体が提供できるようになった、ということである。

米国では、僅か20年前には、新聞・雑誌広告が広告費用全体の30%を超えていた。しかし、ここ5年程は25%にも満たない状況になっている。新聞広告に至っては前年度比30%を超える落込みを記録している。

2000年には、新聞の販売部数が日に5,600万部あった。これは、成人購読層の55.1%に当たる。2008年には4,900万部、2009年はおそらく4,500万部と推定されている。読者層比48.4%である。

一方、雑誌のスタンド販売も雑誌の広告ページも、2桁の落込みを示している。我々にとって重要な疑問は、印刷が将来どこに向かっていくかである。

eBookのような電子機器は、既に持ち運びも便利で、目にも優しい、最新の情報に瞬時にアクセスできて大変便利である。

新聞も、New York Times、Wall Street JournalやWashington Postなどの全国版と、地方色を濃く出す地方新聞の2種類に分かれようとしている。将来的には、個人の指向に合わせたバリエーション新聞へと変身していくと思われ、紙とオンラインのサービスは並行して行われる。新聞や雑誌は、紙とWebを融合したダイレクトマーケティング能力が問われる。

これから印刷媒体をとりまく環境が、新しいビジネスモデルの中で大きく変わっていく。印刷の位置付けは、マルチ・チャネルコミュニケーションの一部として機能していく。印刷部数が小規模になり、消費量は減るであろうが、なくなるわけではない。

この変化に対して、冷静に対応していく事が望まれている。

■「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」

3月17日に電子書籍の普及に向けた著作権などの課題を検討するため、総務省、文部科学省、経済産業省の3省が共同で、関係する各団体から代表者を集めて、懇談会を開催。電子書籍をめぐる問題について意見を聞き、6月までに意見を取りまとめる。

この懇談会を傍聴したので、懇談会の内容についてCNET Japan記事を参考にしてみよう。

Amazon.comのKindleやAppleのiPadなどの発売で、電子書籍に対する注目度が高まっている。文部科学省の中川正春副大臣は「このままでは、日本の出版界は海外からの波にさらわれてしまうという危機感がある。日本としての落とし所を探るための場を設けた」と説明。総務省副大臣の内藤正光氏は「AmazonやAppleの取り組みを否定するつもりはないが、資本力を持った人だけが電子書籍市場を独占してしまうというのは好ましくない。国立国会図書館を巻き込みながら、国として規格を統一したい」と話す。

この懇談会には関係する代表者として、作家、出版社、新聞社、印刷会社、書店、図書館、通信事業者、家電メーカーから参加。座長として東京工業大学名誉教授で国立情報学研究所顧問の末松安晴氏が務めた。

この懇談会では電子書籍ビジネスの今後を考える上でのさまざまな課題が挙げられた。

講談社副社長の野間省伸氏は「デジタル化における出版社の権利について議論が必要」と話す。出版社はこれまで作家や漫画家といった才能の「卵」を見つけ出して成長に投資し、時間をかけて回収しながら次の卵に再投資してきたことで小説や漫画などが日本の文化として発展してきたと指摘。電子書籍という新たな市場を発展させるためにも、出版社の存在が重要だと強調した。

作家の楢岡平氏は「作家というのは、怪物の鮭のようなもの。普通、鮭は一度産卵したら死んで

しまうが、たまに何回も産卵する鮭がいる。作家も新人賞を取ったらほとんどが消えてしまうが、たまにいるモンスターの作家に投資し、育てているのが出版社だ。次々と作品をつくり出す人を生み出す環境作り、人材を育てる部分にもフォーカスして欲しい」と訴えた。

作家の阿刀田高氏も「デジタル化により、より良い出版物が未来に向けて継続的に作れることが最も重要だ」と話した。

漫画家の里中満智子氏は「デジタル化そのものは新しい時代の到来だと思うが、図書館問題が置き去りにされたままだ」と苦言。「図書館の書籍は基本的に無料で貸し出され、著者に印税は発生しないなどの権利制限が課せられている。通常手に入りにくい書籍が図書館で貸し出されるのは良いことだが、ベストセラーなども図書館が大量に揃えて貸し出してしまうため、結果として本が売れず、著者の収入につながっていない」という問題を提起した。

日本書店商業組合連合会 副会長の柴崎繁氏は「書店の商売を考えると、図書館の存在は厳しい。デジタル化が進むことで図書館に行かなくても本が借りられるようになれば、おそらく本屋に行くことがほとんどなくなるだろう。地方ですでに絶滅的に本屋がなくなっており、青森や島根では日本書店商業組合連合会の組合員数は数十店しかない。こういう状態の中で、今後本屋との共生をどうするかについても議論して欲しい」と訴えた。

国立国会図書館長の長尾真氏は、現在国会図書館が古い蔵書のデジタル化を進めていることについて触れ「電子書籍の配信だけでなく、貸し出しという概念についても議論を求めた。また、国会図書館がデジタル化した書籍データを有料で提供し、出版業界に利益を還元する」というアイデア

を紹介した。

米国Sony Electronics上級副社長の野口不二夫氏は、米国で実際に電子書籍事業を担当している立場から、「Kindleが喜ばれている理由の1つは、お年寄りの人が使う際に簡単に文字が大きくなるから。視覚に障害のある人でも音声読み上げで本が読めるなど、デジタル化することで生まれるメリットがたくさんある」と紹介。さらに「映画の歴史は100年程度、音楽も数百年程度だが、テキストは人類創世以来の長い歴史を持つ文化遺産だ。これをきちんと後世に伝えなければならない」と電子書籍についての深い議論を求めた。また、デジタル化により著作権は守りやすくなる面もあると米国での公共図書館の事例を紹介。「米国で公共図書館と一緒に書籍のデジタル化をしているが、ここでは紙とデジタルデータをそれぞれ貸し出しており、デジタルデータは貸し出しから1週間経つと読めなくなり、次の人が借りられる仕組み」より厳密に管理ができると話した。

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科委員長 兼 環境情報学部教授の徳田英幸氏は「著者へのコメントやフィードバックをリアルタイムにできたり、新たな形の広告を埋め込んだり、マーケティングに活用したりといったように、新しい需要を起こせる創発型の出版物の可能性など、デジタル化により生まれる新たな可能性に注目してい

る」と話す。

シャープ代表取締役副社長の安達俊雄氏は「日本のものづくりのパラダイムシフトが起きている。今まで日本のものづくりはすり合わせ型と言われてきたが、部品レベルのすり合わせだけでは対応できない。これからはハードとコンテンツ、ソフトといった、知的レベルのすり合わせが必要になる」とメーカーと出版界との協業が今後の産業発展には必要と述べた。

KDDI取締役執行役員常務の高橋誠氏は、auで「着うた」などのモバイルコンテンツ市場を作り上げてきた経験から「ネットは『コンテンツがすべて無料になる』の危惧を抱く人もいるだろうが、我々は作品の価値をきちんとユーザーに届け、対価を得て著作者に還元することを大切にしてきた。成功したのはモバイルコンテンツ業界であり、世界に誇れるモデルだと考えている。モバイルコンテンツをきっかけに書籍やCDが売れ、デジタルとリアルが共存して、全体としてプラスになるようなビジネスモデルを作ればいい」と提言。

懇談会は今後、技術に関するワーキングチームと、出版物の利活用のあり方に関するワーキングチームの2班に分かれて議論を進め、それぞれ月に2回ほど会合を開き、最終的に懇談会での議論を経て、6月をめどにとりまとめをする計画。

キーポイント：大競争時代に「みんなが使うもの」＝「商品情報コンテンツ」は共同利用型データベースサービスを。

酒類・食品の流通業界の商品マスター・画像マスターの情報共有を推進する取り組みの中で業界の画像DB基盤として、5,000メーカー・28万件の食品画像作成・DB化の運営をベースに、棚割システムに情報を提供。更に このデータベースからチ

■PAGE2010基調講演レポート

今年は2月3日～5日までの3日間、池袋サンシャインで“PAGE2010”が開催され72,470人が来場した。併せて基調講演が開催されたので2セッションの講演内容をレポートする。

「ビジネスが変わる販促が変わる」

(株)サイバーリンクスMDBセンタ事業室 SCM推進室 室長／事業推進課 課長 杉谷宗紀氏

ラシ作製やWeb・ケータイ向けに容易に利用できる画像を提供している。

(株)新進商会 ソリューション開発部 課長 菅野修氏

キーポイント：Windowsライセンス管理の3rd Party認定資格から、Windows7 アップグレードキット(DVD disc複製、COAラベル、取扱説明書等)の製造、ライセンス管理、コールセンター業務まで、フルフィルメントサービスとグローバル化。

CD/DVDなどのメディア複製業務を中心に、そのパッケージの調達から、サプライチェーンに沿った物流サービス、コールセンター業務まで一貫体制をひき、さらに顧客の海外進出に伴って、中国に印刷工場を持つなどフルフィルメントをグローバル展開して、サービスの範囲を広げている。

「Web、ケータイビジネスのキラーコンテンツ」

モデレータ：ドリームビジョン代表取締役社長

平石郁生氏

スピーカー：4トラベル(株) 代表取締役社長

野田臣吾氏

ビートレンド(株) 代表取締役社長

井上英昭氏

Web、ケータイビジネスの「キラーコンテンツ」なるテーマでの議論を通じて、これからのビジネスに関する「示唆」を抽出する。「コンテンツ」という部分では「4トラベル」の野田氏、コンテンツを載せる&流通させる「デバイス(&通信インフラ)」という部分では「ビートレンド」の井上氏が、それぞれに実務に基づいた深い造詣を惜しみなく披露し、有意義なセッションになった。

因みに、Yahoo! JAPANのトラフィックが昨年12月に初めて「減少」に転じたことが象徴しているように、「ポータル」として「トラフィック」を集めて「自社サイト内にコンテンツを包含する」というビジネスモデルが限界にきており「個々のディスティネーション(目的サイト)」に重心が移ってきているのは間違いない。

一方「ソーシャルゲーム」が支持されているということになるが、ソーシャルゲームが支持される理由は「コミュニケーション欲求」であり、ネットの「キラーコンテンツ」の本質は「コミュニケーション」だ。「ゲーム」という「触媒」を通じて、自分と趣味の合う他人との交流(コミュニケーション)を楽しんでいるのである。4トラベル氏は、アメーバピグのユーザが使っているお金の平均は「1,500円/月」と言う。

シリコンバレーでは既に、ビジネスモデルの「主流」は「Freemium(フリーミアム：入口はフリーだが、有益&便利なコンテンツ&サービスは有料)」と言われている。

また、デバイスの中心もPCから「モバイル端末」に移ってきている。モバイル端末の代表格である「ケータイ」の特徴は「プッシュ」で「メール」が届く(届けられる)ことであり、そのメールの開封率は「ほぼ100%」である。

今やiPhoneのハードディスクは「32GB」で、これらのパソコンと同じであり、クラウドコンピューティングとの相乗効果で、ネット接続デバイスとしての「スマートフォン」の価値がますます向上していく。つまり、顧客への「リーチ」が至上命題であるマーケティング目的のWebサイトは間違いなく、「スマートフォン&ケータイ」が中心になっていくと思う。

そして、PCは今後「シンククライアント(クラウド化)」していくだろう。

今から3～5年後、日本の「メディア&広告業界」および「インターネット関連業界」の構造は、大きく変わっていく。

業務・国際委員会

■第18回中国上海国際印刷&フォーラム 2010視察と中国ビジネスフォーラム業界との交流会参加者の募集

業務委員長：小谷正嘉

国際委員長：玉田健治

この度、中国・上海にて開催されます「第18回中国上海国際印刷・包装・製紙産業総合展&フォーラム」の視察と「中国BF印刷分会」との交流会や「中国印刷協会創立30周年記念大会」への参加、併せて上海で開催中の「上海万博」視察を企画致しました。

特に、今回中国のビジネスフォーラム企業が集まって結成されました「中国BF印刷分会」との交流会では日中が共同で、ビジネスフォーラム業界の今までの歩みと現状についての報告を行なう等、両国の新しい交流のスタートの時となります。

また、「中国BF印刷分会」の上部団体である中国印刷協会が、創立30周年を迎えるにあたり記念式典も開催されますのが、この式典へも招待を受けており、日中の交流を深めたいと思います。

「北京オリンピック」や「上海万博」を開催し、大きな成長を続けている中国産業の中で、ビジネスフォーラム業界を直接知る良い機会だと思いますので、会員の皆様の今後の事業展開にお役にたつものと確信しております。

今回の日中の交流会や視察が、今後のビジネス展開の突破口になることを期待しつつ、ご案内申し上げます。

■期 間：2010年7月4日(日)～7月8日(木) 4泊5日

■料 金：135,000円(エコノミークラス利用 2名一室)

■募集人員：15名

■申込締切日：2010年5月17日(月)

■書籍案内 『印刷経営の原点：社会と文化』

世界の最新印刷レポート2009—2010

編纂・刊行：財団法人印刷図書館

体裁：A4判・本文110ページ／無線綴／

日本フォーム工連会員特別頒価：

1,700円(税込)

本書は世界の第一線で活躍している印刷人から、欧米における印刷事情や、社会と文化に関わる実践などを報告していただくとともに、世界および日本の印刷会社がめざしている方向をレポートし、今後の印刷経営に参考となる社会貢献の基本概念を導き出すことを目的に刊行いたしました。

(ご購入方法等については日本フォーム印刷工業連合会事務局まで連絡下さい)

【目次概要】

第1章 社会と文化を支える[印刷の役割]

1. 印刷と社会

WPCF前会長クリス・サイクス

2. 印刷のビジネスモデルとマルチメディアの展望

PIA/GATF会長 マイケル・メーキン

3. 戦略的ビジョンで新たな挑戦を

—講演要旨—

PIA/GATF会長 マイケル・メーキン

4. 印刷産業におけるビジネスモデルの移り変わり

と印刷事業の経営方針

5. 多様化社会に関連するメディアの役割評価

ITTERGRAF専務理事

ベアトリス・クローゼ

第2章 グローバル視点でとらえた[世界の印刷]

国内主力ベンダー各社によるレポート

第3章 日本の印刷会社が探る[企業と社会]

大手印刷会社にみる実践事例

第4章 新時代が変える[印刷ビジネス]

・CSRを考える重要テーマ「環境と印刷」

・印刷経営を“刺激”するデジタル印刷



21世紀の情報記録をサポートします。

三菱情報記録用紙

三菱NCR紙 **三菱IJフォーム用紙** **DFカラーM・G**
ダイヤフォーム **ダイヤメールシリーズ** **OCR用紙** **感熱紙**

三菱製紙株式会社

三菱製紙販売株式会社

本 店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341
 大 阪 支 店 〒541-0056 大阪府中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271

洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎03(3213)3732
 大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪府中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

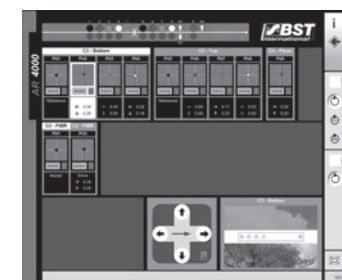
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561
 東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎022(295)7710
 九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531

ビジネスフォーム印刷用 BST自動見当装置システム

プロセスカラーの見当合わせ時間の短縮に最適！

■採用のメリット！！

- ・各オーダー及びオーダープロフィールのデータ管理！
- ・ロット量にかかわらず始かり時間の大幅短縮！
- ・オペレータの技量を選ばないシステム！
- ・手動操作に対して大幅な損紙の軽減！
- ・印刷スピードの大幅アップ！
- ・大幅な損紙の軽減



BSTビーエスティ日本株式会社

東京営業所 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-27 アベニュー高輪411号室 TEL: 03-5798-7805 FAX: 03-5798-7806
 本 社 〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-10-9 箕面フレイベルビル3階 TEL: 072-727-4704 FAX: 072-727-4914
 大阪工場 〒594-0062 大阪府和泉市寺田町3-1-27 TEL: 0725-44-9930 FAX: 0725-44-9931

紙粉による印刷トラブルを解消!!

特許出願中

KBDペーパークリーナー

もう紙粉のトラブルに悩むことはありません!

特長

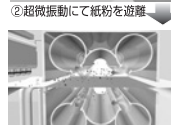
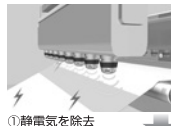
- 素材に全く傷を付けず、強制的に素材(紙、フィルム)を超微振動させ、紙粉を強制的に遊離させて、効率よく吸引除去させます。
- 特殊ローラーを使用し、素材(紙、フィルム)に対し粘着したり、擦ることがありません。

紙粉の除去が多様なメリットをもたらします!

1. 白ヌケが全く無くなった
2. 印刷機を止めることがないので...

- 紙のロスの軽減
 - ブランケット洗浄回数が1/3に
 - 刷版の洗浄が不要になった
- 以上により、
印刷機稼働率が大幅にアップ

3. その他
- 紙粉が飛散しないので、工場内の空気がきれいになった
 - メンテナンス不要によりオペレーターの負担が軽減
 - 色合いのチェックや見当ズレ等のみに注意すればよかった
 - 洗浄液使用量が1/3に、またインキに紙粉がまじらないので、インキ廃棄量も削減
- 枯渇資源の削減につながる**



印刷機材の総合商社

株式会社 光文堂

<http://www.kobundo.co.jp>

インキ練りローラー自動洗浄装置

KBDローラーグリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、
資源の節約を極める

販売実績記録を
更新中!

インキカラーコントロールシステム

KBDマイクロカラー-SL

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で
使いやすくなって、
新機能も追加!

インキカラーコントロールが
グッと身近に。

ニュータイプ登場!!



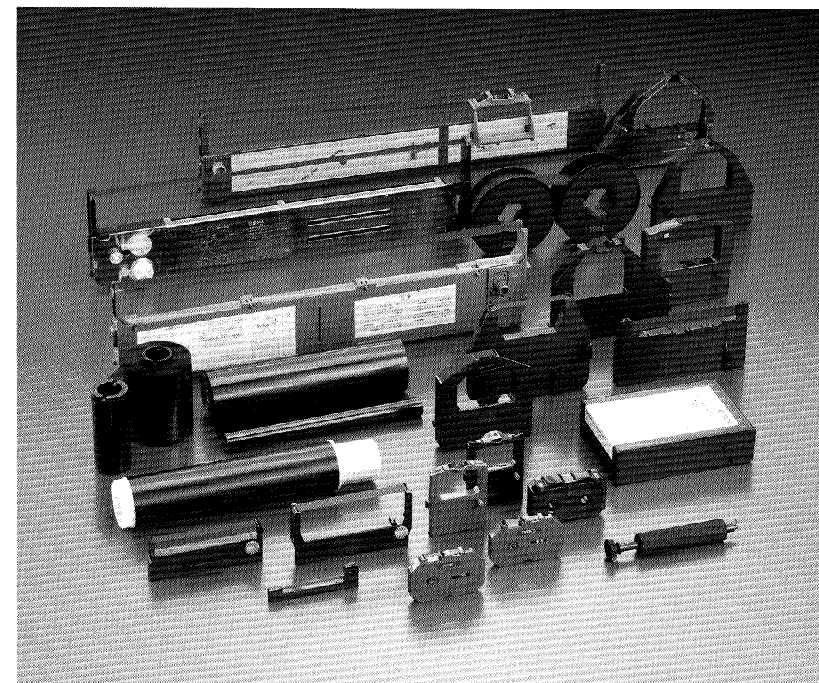
本店/〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052(331)4111(代)
支社/東京 支店/東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所/北海道・青森・山形
千葉・山梨・沼津・浜松・豊橋・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄

貴社の利益倍増計画に協力する 弊社の商品群

インキ部門

フォーム印刷部門

コンピューターサプライ部門



日本製紙株式会社

本社・工場	大阪府高槻市上土室 6-17-1	〒569-1044	電話0726(95)2921(代)
東京支店	東京都千代田区飯田橋 3-11-14	〒102-0072	電話03(3263)2331(代)
福岡営業所	福岡市博多区半道橋 1-5-36	〒812-0897	電話092(472)5731(代)
仙台営業所	仙台市宮城野区高砂 1-24-15	〒983-0014	電話022(254)6021(代)
関東久喜工場	埼玉県久喜市清久町 2-7	〒346-0035	電話0480(23)6363(代)
宇治田原工場	京都府綴喜郡宇治田原町工業団地	〒610-0231	電話07748(8)4711(代)

NPiフォーム NEXT-IJ

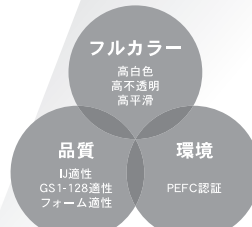
次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。
当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能
インクジェット適性(耐水性、高発色性)を付与し、新たにラインアップいたしました。

■NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/m ²)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。



NEXT-IJ 品質概要

日本製紙株式会社 情報・産業用紙営業本部 情報用紙一部

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel. (03) 6665-1042